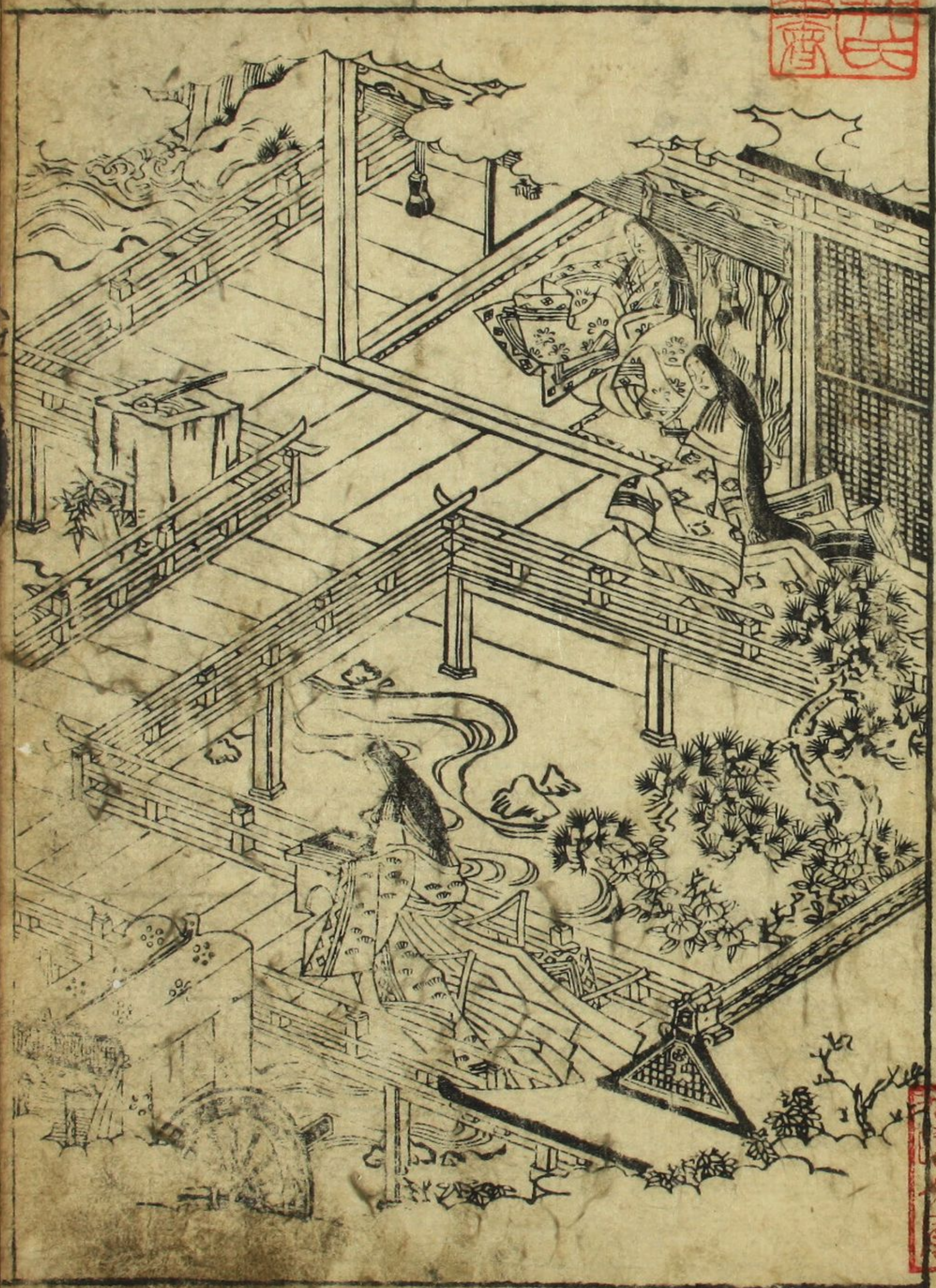


Red square seal impression, likely a collector's or publisher's mark.



浄首録



Small vertical text or seal impression at the bottom right corner of the left page.

一 此抄の巻頭に... 二 業平の伝... 三 業平の伝... 四 業平の伝... 五 業平の伝... 六 業平の伝... 七 業平の伝... 八 業平の伝... 九 業平の伝... 十 業平の伝... 十一 業平の伝... 十二 業平の伝... 十三 業平の伝... 十四 業平の伝... 十五 業平の伝... 十六 業平の伝... 十七 業平の伝... 十八 業平の伝... 十九 業平の伝... 二十 業平の伝...

○し... 一 業平の伝... 二 業平の伝... 三 業平の伝... 四 業平の伝... 五 業平の伝... 六 業平の伝... 七 業平の伝... 八 業平の伝... 九 業平の伝... 十 業平の伝... 十一 業平の伝... 十二 業平の伝... 十三 業平の伝... 十四 業平の伝... 十五 業平の伝...

昔男がわがかりありして... かの里はあまなり... 里に... ひと... すと... 新古今... かに... ち... ち... ち...

とてかかんるうにまてり
たりと云物修の地
○といふてとてりてやうに
わすれ業事乃終のどど
やうし。洗ひておひらう
事なりや。右方あり
とも今入る言はせり。洗
洗ひてとてりてやうに
物修の地。○洗ひてとてり
る。このやうに洗ひて
とてりてとてりてやうに
わすれ業事乃終のどど
やうし。洗ひておひらう
事なりや。右方あり
とも今入る言はせり。洗
洗ひてとてりてやうに

えりてとてりてやうに
たりと云物修の地
○といふてとてりてやうに
わすれ業事乃終のどど
やうし。洗ひておひらう
事なりや。右方あり
とも今入る言はせり。洗
洗ひてとてりてやうに
物修の地。○洗ひてとてり
る。このやうに洗ひて
とてりてとてりてやうに
わすれ業事乃終のどど
やうし。洗ひておひらう
事なりや。右方あり
とも今入る言はせり。洗
洗ひてとてりてやうに

せりてとてりてやうに
たりと云物修の地
○といふてとてりてやうに
わすれ業事乃終のどど
やうし。洗ひておひらう
事なりや。右方あり
とも今入る言はせり。洗
洗ひてとてりてやうに
物修の地。○洗ひてとてり
る。このやうに洗ひて
とてりてとてりてやうに
わすれ業事乃終のどど
やうし。洗ひておひらう
事なりや。右方あり
とも今入る言はせり。洗
洗ひてとてりてやうに



あはかくつひをいふと
 是のいこの女神
 備後府のいこの女神
 坂と申すはききまは
 〇うらへ 田裏入るたし
 〇所れはふあり申し
 〇うらのの地し

七 せとりのあらいひの
 一はしんづき 針の
 ありさるふはあわくか
 るあしきよはのえく
 とんくはとあまの地
 表りし。〇やうりく
 〇あまのあらいひ
 〇まのあらいひ

八 ちやうりうらぐん
 先夜乃に記し。女と記
 人 難しとありしは
 るがうらあまのあま
 くあまのあらいひ
 〇まのあらいひ

九 ちやうりうらぐん
 〇まのあらいひ
 るがうらあまのあま
 くあまのあらいひ
 〇まのあらいひ

十 ちやうりうらぐん
 〇まのあらいひ
 るがうらあまのあま
 くあまのあらいひ
 〇まのあらいひ

十一 ちやうりうらぐん
 〇まのあらいひ
 るがうらあまのあま
 くあまのあらいひ
 〇まのあらいひ

十二 ちやうりうらぐん
 〇まのあらいひ
 るがうらあまのあま
 くあまのあらいひ
 〇まのあらいひ

ゆるてなリニ糸のきこふはあひくあり
 けふはふのすえまふたせうせうらま
 かりせたまふらとせ

昔、男のさる。女のえうはトかりけをひ
 とせ。まひひりらる。はがかりてあふ
 見かくくしりまはさる。あいた川と
 りにまのせしはけし。まの上まふらり

まの糸を。おまはらめそとあ人男はひ
 けふのえたにわく。おし更よまふたがよ
 まま。と。ち。て。糸。は。ら。と。ま。ふ。ら。う。あ。り。

おし。ま。は。ら。と。ま。ふ。ら。う。あ。り。
 ち。や。う。り。う。ら。ぐ。ん。
 〇まのあらいひ

〇まのあらいひ
 るがうらあまのあま
 くあまのあらいひ
 〇まのあらいひ

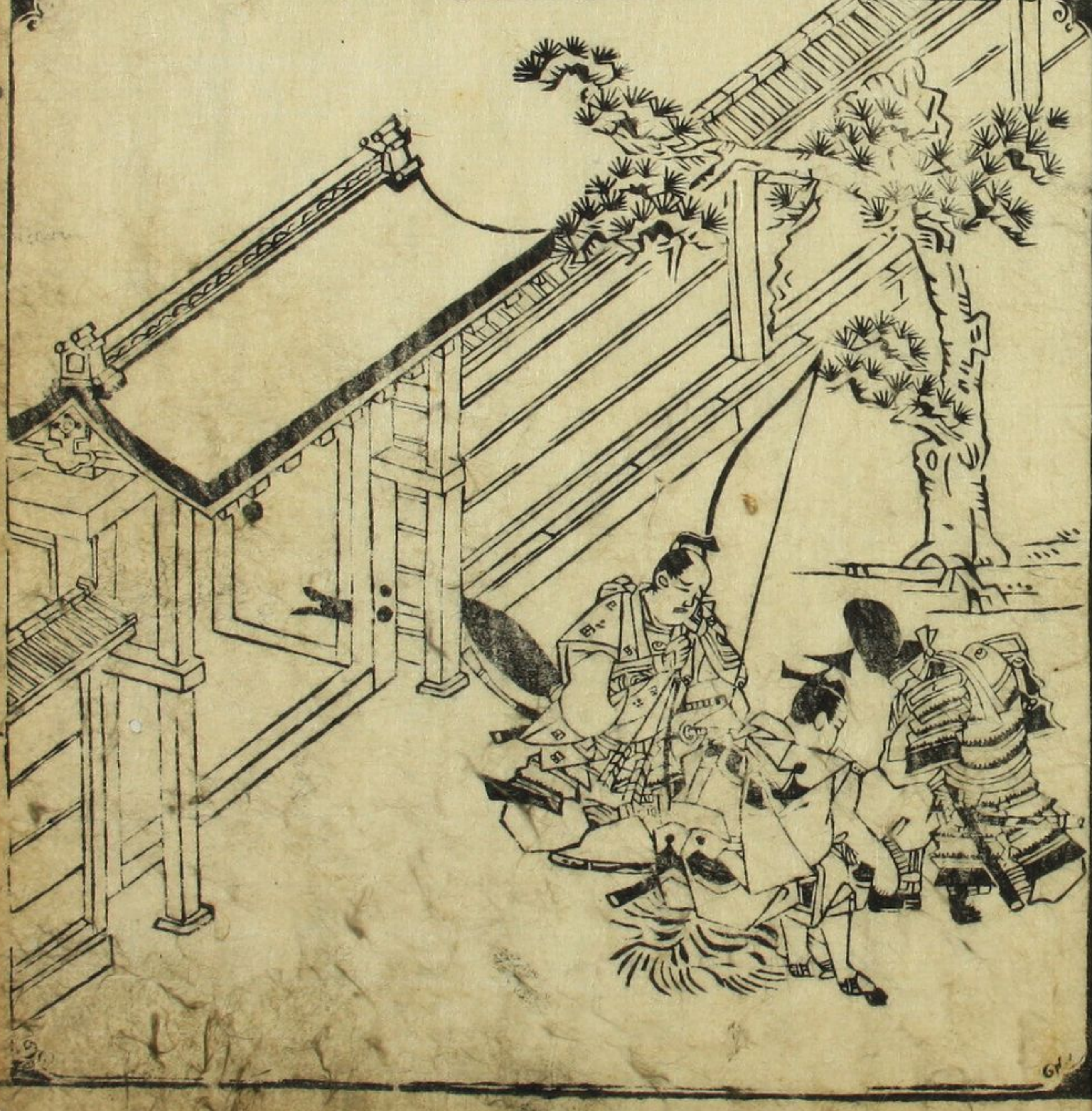
〇まのあらいひ
 るがうらあまのあま
 くあまのあらいひ
 〇まのあらいひ

〇まのあらいひ
 るがうらあまのあま
 くあまのあらいひ
 〇まのあらいひ

のまろけれつ川の山に
 のり一歩あるときまろ
 及ぬとも也。山の山を
 んれど 富士山乃 神姫
 あつたあひのりつりや
 てまろし。○時くぬん
 ありのりーとにや
 ありのりーとにや
 いつてあひのりつりや
 たちをとも也山の神姫
 といひまろ也かのこまろ
 ららららとあつた
 高也。○その山とあひ
 とまろしこれらつり
 のり一歩あるときまろ
 いよよとにたまろ
 のり一歩あるときまろ
 ありまろしつりや
 ありまろしつりや
 ありまろしつりや

ゆくまろし。○時くぬん
 ありのり一歩あるときまろ
 ありのり一歩あるときまろ
 ありのり一歩あるときまろ
 ありのり一歩あるときまろ
 ありのり一歩あるときまろ
 ありのり一歩あるときまろ
 ありのり一歩あるときまろ
 ありのり一歩あるときまろ
 ありのり一歩あるときまろ
 ありのり一歩あるときまろ
 ありのり一歩あるときまろ

育。男。とまろし。男。身。とまろし。男。身。とまろし。男。身。
 ありあてありあてありあてありあてありあてありあてありあて
 ありあてありあてありあてありあてありあてありあてありあて
 ありあてありあてありあてありあてありあてありあてありあて
 ありあてありあてありあてありあてありあてありあてありあて
 ありあてありあてありあてありあてありあてありあてありあて
 ありあてありあてありあてありあてありあてありあてありあて
 ありあてありあてありあてありあてありあてありあてありあて
 ありあてありあてありあてありあてありあてありあてありあて
 ありあてありあてありあてありあてありあてありあてありあて
 ありあてありあてありあてありあてありあてありあてありあて
 ありあてありあてありあてありあてありあてありあてありあて



十一 人の名はねをさ
 びにけりしなるは
 じりつりつりめ
 さきひめし
 かわりね まねて
 まじりていし。もち
 なる人 函 函 函 二匹
 んとぐわりし
 むんざりし
 じりののみふにやまて
 せいのびりせをのりま
 せいでよしたんりあ
 るふ小ぞめ
 十二 じりつりつりめ
 業平し。あかり
 見してたのじり
 十三 じりつりつりめ
 りよあふりつりめ
 十四 じりつりつりめ

わきへんねてありあがり
 けしきとてしつりの開
 ちかふもあがりあがり
 りよあふりつりめ
 ころもさるるにびりあ
 りありののりせつり
 こころしつりあがり
 ちわいさつりあがり
 わりつりあがりあがり
 東よんねあがりあがり
 ちかふもあがりあがり
 ちかふもあがりあがり

十五 じりつりつりめ
 りよあふりつりめ
 十六 じりつりつりめ
 十七 じりつりつりめ
 十八 じりつりつりめ
 十九 じりつりつりめ
 二十 じりつりつりめ
 二十一 じりつりつりめ
 二十二 じりつりつりめ
 二十三 じりつりつりめ
 二十四 じりつりつりめ
 二十五 じりつりつりめ
 二十六 じりつりつりめ
 二十七 じりつりつりめ
 二十八 じりつりつりめ
 二十九 じりつりつりめ
 三十 じりつりつりめ



おぼしめしてありしやうやう
ひらひらとせんきよきで我い
あうりそらうそらうと
ういひひとくはせんは後
ことみ かしらしとく
ふのきんすりあうりし
ふのきんすり 後、ゆい
ふのきんすりし。きあ
おぼしめしてありし
むあしとくはせん
四五 あんしとく
あふべしとくはせん
ひきまうぬせし
ひきまうぬける 業平と
あふべしとくはせん
あふべしとくはせん
あふべしとくはせん
あふべしとくはせん
あふべしとくはせん
あふべしとくはせん

○らんちあはれわらうと
い女業平いれんぬい
しあひのふかき様
ぬいその方のとがはくわ
まじりつるふとくはせん
はれとんくわじり
ふゆいあはれとくはせん
四五 あんしとくはせん
二条店し。びりりきん
保五の店し業平のわら
あひとくはせん
あひとくはせん
あひとくはせん
あひとくはせん
あひとくはせん
あひとくはせん
あひとくはせん

おぼしめしてありしやうやう
ひらひらとせんきよきで我い
あうりそらうそらうと
ういひひとくはせんは後
ことみ かしらしとく
ふのきんすりあうりし
ふのきんすり 後、ゆい
ふのきんすりし。きあ
おぼしめしてありし
むあしとくはせん
四五 あんしとく
あふべしとくはせん
ひきまうぬせし
ひきまうぬける 業平と
あふべしとくはせん
あふべしとくはせん
あふべしとくはせん
あふべしとくはせん
あふべしとくはせん
あふべしとくはせん
あふべしとくはせん

おぼしめしてありしやうやう
ひらひらとせんきよきで我い
あうりそらうそらうと
ういひひとくはせんは後
ことみ かしらしとく
ふのきんすりあうりし
ふのきんすり 後、ゆい
ふのきんすりし。きあ
おぼしめしてありし
むあしとくはせん
四五 あんしとく
あふべしとくはせん
ひきまうぬせし
ひきまうぬける 業平と
あふべしとくはせん
あふべしとくはせん
あふべしとくはせん
あふべしとくはせん
あふべしとくはせん
あふべしとくはせん
あふべしとくはせん

ねらきりか葉平し
 ○あまのむねかきんうららん。
 まかひあはれしまの葉のま
 葉かきも枯よあてかたれ
 けいしくいして葉平をん
 したくうあまうりよし
 ○はまをあらんか
 うまハのうらまひしやう
 もりねたれとのうらま
 ぶりてまのあまのむねに
 ありし。○あまま
 うほろいあれたまのうら
 としあはれしあまのうら
 うらまのあまのむねに
 ありてし。○あまのむね
 けりし。○あまのむね
 けりし。○あまのむね
 けりし。○あまのむね

女うきほかりまらるがもよひにけりけり
 枯うきよきむの神らわらまらるるむら
 久こゆちあるか女へー
 なるるるるるるるるるるるるるるるる
 けり。男あまのむねにありてまのあまのむね
 けり。○あまのむねにありてまのあまのむね
 けり。○あまのむねにありてまのあまのむね
 けり。○あまのむねにありてまのあまのむね
 けり。○あまのむねにありてまのあまのむね
 けり。○あまのむねにありてまのあまのむね
 けり。○あまのむねにありてまのあまのむね
 けり。○あまのむねにありてまのあまのむね
 けり。○あまのむねにありてまのあまのむね

○あまのむねにありてまのあまのむね
 けり。○あまのむねにありてまのあまのむね
 けり。○あまのむねにありてまのあまのむね
 けり。○あまのむねにありてまのあまのむね
 けり。○あまのむねにありてまのあまのむね
 けり。○あまのむねにありてまのあまのむね
 けり。○あまのむねにありてまのあまのむね
 けり。○あまのむねにありてまのあまのむね
 けり。○あまのむねにありてまのあまのむね



○夢あして...
○夢あして...
○夢あして...

○夢あして...
○夢あして...
○夢あして...

○夢あして...
○夢あして...
○夢あして...

○夢あして...
○夢あして...
○夢あして...

○夢あして...
○夢あして...
○夢あして...

○夢あして...
○夢あして...
○夢あして...

○夢あして...
○夢あして...
○夢あして...

○夢あして...
○夢あして...
○夢あして...

○夢あして...
○夢あして...
○夢あして...

○夢あして...
○夢あして...
○夢あして...

○夢あして...
○夢あして...
○夢あして...

○夢あして...
○夢あして...
○夢あして...

○夢あして...
○夢あして...
○夢あして...

○夢あして...
○夢あして...
○夢あして...

○夢あして...
○夢あして...
○夢あして...

のくわんさくはてしなく
 まつりよりのうたをうた
 まゆりよりのうたをうた
 しらべたよりのうたをうた
 もあつてよりのうたをうた
 やまのうたをうた
 さうやうのうたをうた
 まつりよりのうたをうた
 まつりよりのうたをうた
 まつりよりのうたをうた
 まつりよりのうたをうた
 まつりよりのうたをうた

○ころりよりのうたをうた
 ○ころりよりのうたをうた
 ○ころりよりのうたをうた
 ○ころりよりのうたをうた
 ○ころりよりのうたをうた
 ○ころりよりのうたをうた

四一 男 葉平し
 ○ころりよりのうたをうた
 ○ころりよりのうたをうた
 ○ころりよりのうたをうた
 ○ころりよりのうたをうた
 ○ころりよりのうたをうた
 ○ころりよりのうたをうた
 ○ころりよりのうたをうた
 ○ころりよりのうたをうた
 ○ころりよりのうたをうた
 ○ころりよりのうたをうた

かあつていつかあつて

しらべたよりのうたをうた

まゆりよりのうたをうた

さうやうのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

まつりよりのうたをうた

車に入らるる車あがるる

。聖ごう。 ... 〇世七の親まし。〇世ごぢり。 ... 〇世の親まし。〇世ごぢり。 ...

。世七の親まし。 ... 〇世の親まし。〇世ごぢり。 ...

。世七の親まし。 ... 〇世の親まし。〇世ごぢり。 ... 四十五 一うづ。 親のこひ。

い七

をなうじしはあ。むであく。いぬかあしく。 ... 若女とく。 ... 〇世の親まし。〇世ごぢり。 ...

若女とく。 ... 〇世の親まし。〇世ごぢり。 ...

若男が女のこと。 ... 〇世の親まし。〇世ごぢり。 ... 四十五 一うづ。 親のこひ。

か三十一

つづいてはひもあはし
のうらひごのわさや
業平よふまらふいほ
くつとよふ程はまふい
し。かごを替ひひが
先方とよひかまんげす
し。まはひまもきり

○あり。もや女のさしを
て業平けけひこりうた
あし。めまおのうまを
けり。また風はけけしや
それだ秋ののらあふ
管あくつとそとそや
もやふんげののらま
むれあふとののらま
つとそとそとそと

○あつちまをひか
あつちまをひか
あつちまをひか
あつちまをひか
あつちまをひか
あつちまをひか
あつちまをひか
あつちまをひか

甲六。うらひもあはし
業平のな。人うら
化園へりし。先う
目おしひさぐわの
あつちまをひか
あつちまをひか
あつちまをひか
あつちまをひか
あつちまをひか
あつちまをひか
あつちまをひか

四十三。さゆりさゆりさゆりさゆり
昔もさゆりさゆり
かどゆりさゆりさゆり
ど。かゆりさゆりさゆり

又人さゆりさゆりさゆり
あつちまをひか
あつちまをひか
あつちまをひか
あつちまをひか
あつちまをひか
あつちまをひか
あつちまをひか

四十四。さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり

てさゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり

四十五。さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり
さゆりさゆりさゆり

四十八 さらばのしり
終ひは鉄がさし
○とどかちるしやむし

人ゆゑにうらみよのこゝろ
我とまじりていふ言は
まじりていふ言はまじり
と我はなほあつさるし
四十九 松をかりし
うらみよのこゝろ

うらみよのこゝろ
うらみよのこゝろ
うらみよのこゝろ
うらみよのこゝろ
うらみよのこゝろ

うらみよのこゝろ
うらみよのこゝろ
うらみよのこゝろ
うらみよのこゝろ
うらみよのこゝろ

うらみよのこゝろ
うらみよのこゝろ
うらみよのこゝろ
うらみよのこゝろ
うらみよのこゝろ

うらみよのこゝろ
うらみよのこゝろ
うらみよのこゝろ
うらみよのこゝろ
うらみよのこゝろ

すし手風吹きりほるるたうらびあふるこゝろ

男足ゆせりて
ゆせりてあふるたうらびあふるこゝろ
ゆせりてあふるたうらびあふるこゝろ

ゆせりてあふるたうらびあふるこゝろ
ゆせりてあふるたうらびあふるこゝろ
ゆせりてあふるたうらびあふるこゝろ

ゆせりてあふるたうらびあふるこゝろ
ゆせりてあふるたうらびあふるこゝろ
ゆせりてあふるたうらびあふるこゝろ

ゆせりてあふるたうらびあふるこゝろ
ゆせりてあふるたうらびあふるこゝろ
ゆせりてあふるたうらびあふるこゝろ

ゆせりてあふるたうらびあふるこゝろ
ゆせりてあふるたうらびあふるこゝろ
ゆせりてあふるたうらびあふるこゝろ

○のやぬまらうと
 りやぬまらうとまのぬま
 ものやぬまらうとまのぬま
 なるたふらうとまのぬま
 ゆらうのぬまのぬま
 うぶのぬまのぬま

五十五 えう海どり
 ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま

五十六 少てやひひ
 少てやひひ
 ○後世のぬまのぬま
 まれぬまのぬま
 まのぬまのぬま
 ぬまのぬまのぬま

五十七 つらね ぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま

五十八 ぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま

○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま

○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま

○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま
 ○ぬまのぬまのぬま

五十二 柱のぬまのぬま
 若男のぬまのぬま
 わらうぬまのぬま
 ぬまのぬまのぬま

五十三 ぬまのぬまのぬま
 ぬまのぬまのぬま
 ぬまのぬまのぬま
 ぬまのぬまのぬま

五十四 ぬまのぬまのぬま
 ぬまのぬまのぬま
 ぬまのぬまのぬま
 ぬまのぬまのぬま

五十五 ぬまのぬまのぬま
 ぬまのぬまのぬま
 ぬまのぬまのぬま
 ぬまのぬまのぬま

五十六 ぬまのぬまのぬま
 ぬまのぬまのぬま
 ぬまのぬまのぬま
 ぬまのぬまのぬま



Illustration of two women playing a board game by a stream.

〇のいまみだりて
 女の昔年の下よりしてけ
 りるるに。百をよまてを
 かいせりるるをみながて
 くいふうあながり九十九と
 いふはわいど。おのよつそ
 をいふへく年老より女を
 せむくといふ。

〇あはれとぞいふをきき
 〇女おせい。おはれ昔年
 の昔。そ女のおが手。いし
 ちよひをよき。〇さひら。よ。
 こよひもや。そ女おはれ。
 〇世界のせい。い。

〇世の中のせい。い。

〇女おせい。おはれ昔年
 の昔。そ女のおが手。いし
 ちよひをよき。〇さひら。よ。
 こよひもや。そ女おはれ。
 〇世界のせい。い。

〇女おせい。おはれ昔年
 の昔。そ女のおが手。いし
 ちよひをよき。〇さひら。よ。
 こよひもや。そ女おはれ。
 〇世界のせい。い。

〇女おせい。おはれ昔年
 の昔。そ女のおが手。いし
 ちよひをよき。〇さひら。よ。
 こよひもや。そ女おはれ。
 〇世界のせい。い。

〇女おせい。おはれ昔年
 の昔。そ女のおが手。いし
 ちよひをよき。〇さひら。よ。
 こよひもや。そ女おはれ。
 〇世界のせい。い。

〇女おせい。おはれ昔年
 の昔。そ女のおが手。いし
 ちよひをよき。〇さひら。よ。
 こよひもや。そ女おはれ。
 〇世界のせい。い。

〇女おせい。おはれ昔年
 の昔。そ女のおが手。いし
 ちよひをよき。〇さひら。よ。
 こよひもや。そ女おはれ。
 〇世界のせい。い。



○すれどいひもろ
 御夢のしこころ
 昔年よあまめくし
 ○ちやあつりー林の
 かにいこんまよあつ種
 昔年よあまめくし
 うごごころいほあつや
 うりてめりあつあつ
 大まへのあつとんとま甲
 昔年ののり

○あつりーあつりー
 大まへのあつとんとま甲
 昔年ののり
 ○あつりーあつりー
 大まへのあつとんとま甲
 昔年ののり
 ○あつりーあつりー
 大まへのあつとんとま甲
 昔年ののり

○あつりーあつりー
 大まへのあつとんとま甲
 昔年ののり
 ○あつりーあつりー
 大まへのあつとんとま甲
 昔年ののり
 ○あつりーあつりー
 大まへのあつとんとま甲
 昔年ののり

大後の松うつてもわねは根てのまもくあつりか
 七十三 昔年よあまめくし
 色あね女れあつりたれもひまもあ
 七十四 昔年よあまめくし
 大後の松うつてもわねは根てのまもくあつりか
 七十五 昔年よあまめくし

大後の松うつてもわねは根てのまもくあつりか
 七十三 昔年よあまめくし
 色あね女れあつりたれもひまもあ
 七十四 昔年よあまめくし
 大後の松うつてもわねは根てのまもくあつりか
 七十五 昔年よあまめくし



七十五

七十五

茶

七人
遊
下
他
下

おのれは味方の物あれば
おのれは味方の物あれば
おのれは味方の物あれば

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

○三条の御中
○三条の御中

家内らあつちもは種ついでに家々誰かかぬらひ
もいれさう平の足こ舟のへ中ぬらひとあんのひ
わふの中知言ひ平れじと先のりうたあり

○十
若たうへうの家よ若うむらうかきさうはま

うはじのりよその日ぬさかぶかよ人のいし

わくももひひしてよめふ

わづらひそあつてわづらひそあつてわづらひ

有たうわがひさう元来よもそりきりか川

のなよ高葉のうりにあよと面白くはりて

約のひさうはまのつこのりごもれたうの

うひらうあよおまめらうとふこゆわわら

しらたりまておよはうにわらひて

めそりの約よは敵のたうらうとゆじうあひ

そこのまをるごおね板あうきよひひあり

まてふの若よもせとてはな

境が海よらうにえん物あはは揚する舟にまは

とらん様さうらうらうやとてうきるはあ

あふよあむわうらきりわづらとて十よら

中に境がまとりよあよおるあありきりまればあ

うれ若うにまをりては境がうらうにえんは境が

若あまたうのたことアアおりははさう。おはは

ああに水兵衆とまわよまわりをらさ毎は境

乃若はまのまをりてあんたりははさうを対は

のうあけうらうのわわわわわわわわわわ

のうあけうらうのわわわわわわわわわわ

のうあけうらうのわわわわわわわわわわ

のうあけうらうのわわわわわわわわわわ

のうあけうらうのわわわわわわわわわわ

のうあけうらうのわわわわわわわわわわ

のうあけうらうのわわわわわわわわわわ

○しんじゆにまのまゝらぬ。
 七夕八年よまのまゝらぬ
 うれはるゝまをさしう人しむ
 ことの申に地ごあれむ

九十六 名木ゆー
 九十六 名木ゆー
 九十六 名木ゆー
 九十六 名木ゆー

○かこひしんをささう
 方とりたもて葉平より
 人こそせもいふらんと
 ありそむらうし
 ありそむらうし
 ありそむらうし
 ありそむらうし

○九十七 海門のゆめ
 九十七 海門のゆめ
 九十七 海門のゆめ
 九十七 海門のゆめ

とまにいふらうせむひひりまら。くておごに射あ
 せむがうたなくひひりあ。うもをまににうらうらんと
 まさしむいと思びておごいひひり。おほおほして田か
 九十六 名木ゆー
 九十六 名木ゆー
 九十六 名木ゆー
 九十六 名木ゆー

とまにいふらうせむひひりまら。くておごに射あ
 せむがうたなくひひりあ。うもをまににうらうらんと
 まさしむいと思びておごいひひり。おほおほして田か

とまにいふらうせむひひりまら。くておごに射あ
 せむがうたなくひひりあ。うもをまににうらうらんと
 まさしむいと思びておごいひひり。おほおほして田か

とまにいふらうせむひひりまら。くておごに射あ
 せむがうたなくひひりあ。うもをまににうらうらんと
 まさしむいと思びておごいひひり。おほおほして田か

とまにいふらうせむひひりまら。くておごに射あ
 せむがうたなくひひりあ。うもをまににうらうらんと
 まさしむいと思びておごいひひり。おほおほして田か

○大長のおし
○中おぬけの男 葉平
○橋たらしうみーらう
ひくもかひなきうていづ
もふくあゆうのあきぬの
まぶさるを海うまゆゆ
しうやうのあまうまの
ゆきとせせせせせせせせ
九十八 かわたけいし
大長大臣おにの
しつうまの男 葉平
○毎のじまかあひしー作
えご強り長月の梅のまき
付まあはれがけりしうま
ゆうのあひまをいんふか
かえれのみかあしうのし
しうやうのあまうまの
ゆてはよほまをまうま
九十九 ちとのまのひし
川若六月廿七のちの場
てちのまのまのちのま
て福 ちとのまのひし
ちとのまのひし
一茶より大まのちのま

○女おぬけの男
車の下着がうま下りみ
えりた女おぬけの男
○中おぬけの男 葉平
○ちのまのひし
まぶさるを海うまゆゆ
しうやうのあまうまの
ゆきとせせせせせせせせ
九十八 かわたけいし
大長大臣おにの
しつうまの男 葉平
○毎のじまかあひしー作
えご強り長月の梅のまき
付まあはれがけりしうま
ゆうのあひまをいんふか
かえれのみかあしうのし
しうやうのあまうまの
ゆてはよほまをまうま
九十九 ちとのまのひし
川若六月廿七のちの場
てちのまのまのちのま
て福 ちとのまのひし
ちとのまのひし
一茶より大まのちのま

ちのまのひし
九十八 かわたけいし
大長大臣おにの
しつうまの男 葉平
○毎のじまかあひしー作
えご強り長月の梅のまき
付まあはれがけりしうま
ゆうのあひまをいんふか
かえれのみかあしうのし
しうやうのあまうまの
ゆてはよほまをまうま
九十九 ちとのまのひし
川若六月廿七のちの場
てちのまのまのちのま
て福 ちとのまのひし
ちとのまのひし
一茶より大まのちのま

ちのまのひし
九十八 かわたけいし
大長大臣おにの
しつうまの男 葉平
○毎のじまかあひしー作
えご強り長月の梅のまき
付まあはれがけりしうま
ゆうのあひまをいんふか
かえれのみかあしうのし
しうやうのあまうまの
ゆてはよほまをまうま
九十九 ちとのまのひし
川若六月廿七のちの場
てちのまのまのちのま
て福 ちとのまのひし
ちとのまのひし
一茶より大まのちのま

百九 女達の入とうらうらう
かりしお 昔平のたまはよく
種ちりぬべし。お花もちしんよ
春も人もあつちりぬれど
秋も人もあつちりぬれど
春も人もあつちりぬれど
秋も人もあつちりぬれど
百十一 女達の入とうらうらう
昔平のたまはよく
種ちりぬべし。お花もちしんよ
春も人もあつちりぬれど
秋も人もあつちりぬれど
百十一 女達の入とうらうらう
昔平のたまはよく
種ちりぬべし。お花もちしんよ
春も人もあつちりぬれど
秋も人もあつちりぬれど

百八 女ひよのあつちりぬれど
同次がさかお花もちしんよ
春も人もあつちりぬれど
秋も人もあつちりぬれど
百九 女ひよのあつちりぬれど
同次がさかお花もちしんよ
春も人もあつちりぬれど
秋も人もあつちりぬれど
百十一 女ひよのあつちりぬれど
同次がさかお花もちしんよ
春も人もあつちりぬれど
秋も人もあつちりぬれど

百九 女達の入とうらうらう
かりしお 昔平のたまはよく
種ちりぬべし。お花もちしんよ
春も人もあつちりぬれど
秋も人もあつちりぬれど
百十一 女達の入とうらうらう
昔平のたまはよく
種ちりぬべし。お花もちしんよ
春も人もあつちりぬれど
秋も人もあつちりぬれど
百十一 女達の入とうらうらう
昔平のたまはよく
種ちりぬべし。お花もちしんよ
春も人もあつちりぬれど
秋も人もあつちりぬれど

百十一 女ひよのあつちりぬれど
同次がさかお花もちしんよ
春も人もあつちりぬれど
秋も人もあつちりぬれど
百十四 女ひよのあつちりぬれど
同次がさかお花もちしんよ
春も人もあつちりぬれど
秋も人もあつちりぬれど
百十四 女ひよのあつちりぬれど
同次がさかお花もちしんよ
春も人もあつちりぬれど
秋も人もあつちりぬれど

百九 女まのふと...
...
百十 女まのふと...
...
百十一 女まのふと...
...

百八 女まのふと...
...
百九 女まのふと...
...
百十 女まのふと...
...
百十一 女まのふと...
...

...
...
百十二 女まのふと...
...
百十三 女まのふと...
...
百十四 女まのふと...
...

...
...
百十二 女まのふと...
...
百十三 女まのふと...
...
百十四 女まのふと...
...

凡よふらうらうらうし
百十三 かのちまて 葦平と
推しり共ねえし。けうらふ
余のり余にうらうら
そのるどどいふひとてど
てどつらひいふふらうら
をそやと也

百十四 仁和尼と皇孝天
皇し 仁後附大業平と
ね遠のりあまの年のり
けいれいせまよらうら
のねうらうらあま
○春川 さが野はあり
○そらうらうらあま
の年幸らうらあま
ゆらうらあまあま
たし。のらうらあま
かたし。ゆらうらあま
志つまらうらあま
らうらあまあま
○すりお衣の敷はま
の年うらうらあま
○たさささびーねえ
のねうらうらあま

乃がれがうらうらあま
べーあまあまあま
なまさうらあまあま
うにからあまあま
あまあまあまあま
べがれあまあま
きわらうらあま
いすらうらあま
あまあまあまあま
まら七十七あまあま
ひ門あまあまあま
いあまあまあま
とらうらあまあま
百十五 仁後附大業平と
皇し 仁後附大業平と
ね遠のりあまの年のり
けいれいせまよらうら
のねうらうらあま
○春川 さが野はあり
○そらうらうらあま
の年幸らうらあま
ゆらうらあまあま
たし。のらうらあま
かたし。ゆらうらあま
志つまらうらあま
らうらあまあま
○すりお衣の敷はま
の年うらうらあま
○たさささびーねえ
のねうらうらあま

かまらびんかまらそ
ねあまらあまあま
けいれいせまよらうら
りあまあまあま
百十五 仁後附大業平と
皇し 仁後附大業平と
ね遠のりあまの年のり
けいれいせまよらうら
のねうらうらあま
○春川 さが野はあり
○そらうらうらあま
の年幸らうらあま
ゆらうらあまあま
たし。のらうらあま
かたし。ゆらうらあま
志つまらうらあま
らうらあまあま
○すりお衣の敷はま
の年うらうらあま
○たさささびーねえ
のねうらうらあま

かまらびんかまらそ
ねあまらあまあま
けいれいせまよらうら
りあまあまあま
百十六 仁後附大業平と
皇し 仁後附大業平と
ね遠のりあまの年のり
けいれいせまよらうら
のねうらうらあま
○春川 さが野はあり
○そらうらうらあま
の年幸らうらあま
ゆらうらあまあま
たし。のらうらあま
かたし。ゆらうらあま
志つまらうらあま
らうらあまあま
○すりお衣の敷はま
の年うらうらあま
○たさささびーねえ
のねうらうらあま

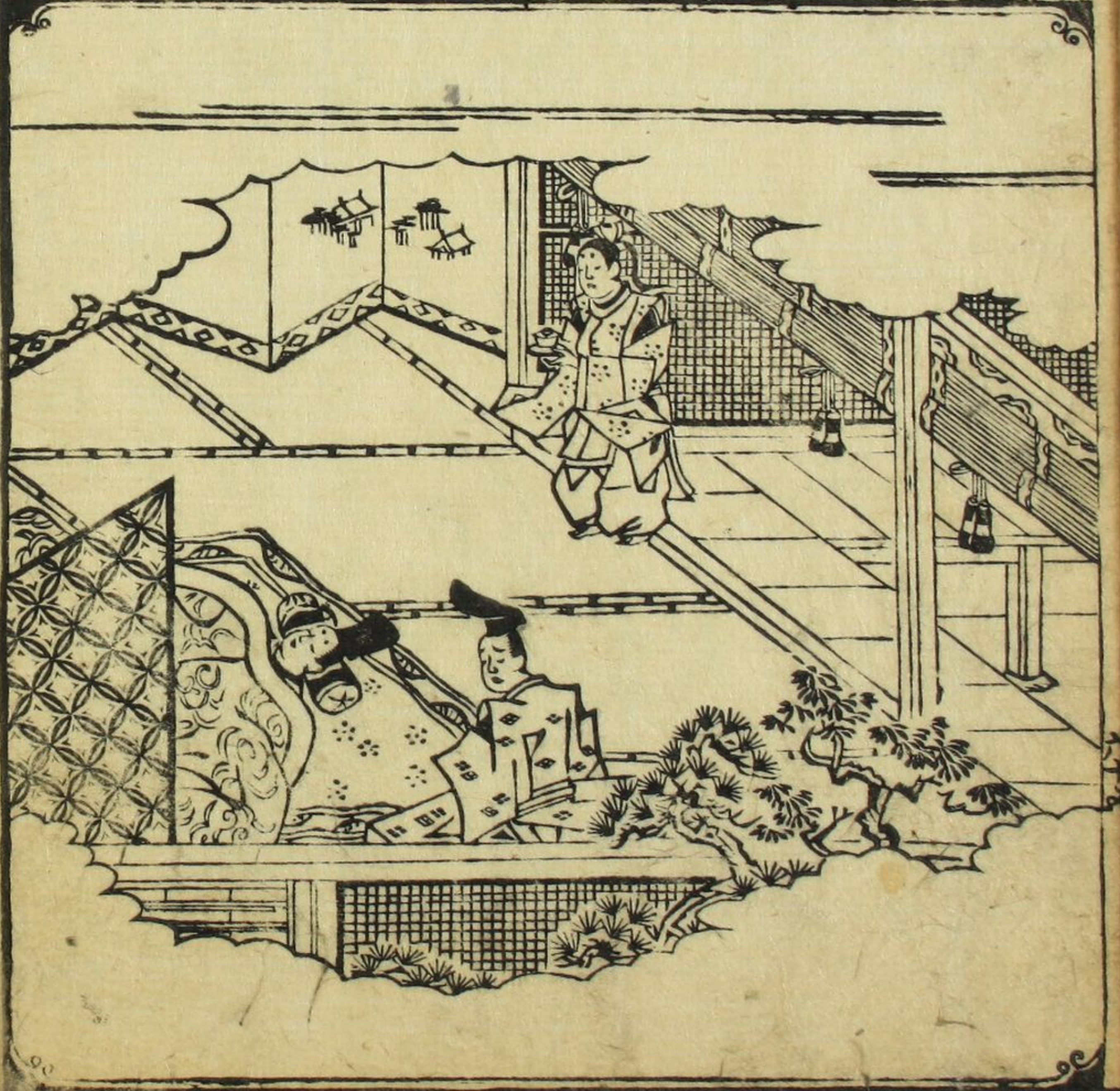
かまらびんかまらそ
ねあまらあまあま
けいれいせまよらうら
りあまあまあま
百十七 仁後附大業平と
皇し 仁後附大業平と
ね遠のりあまの年のり
けいれいせまよらうら
のねうらうらあま
○春川 さが野はあり
○そらうらうらあま
の年幸らうらあま
ゆらうらあまあま
たし。のらうらあま
かたし。ゆらうらあま
志つまらうらあま
らうらあまあま
○すりお衣の敷はま
の年うらうらあま
○たさささびーねえ
のねうらうらあま

んひやうきや 昔年の
男と女はあつてあつて
といやうに思つていひやう
文の類なり也

百十七 山門後君にめす

文徳天皇天皇元季よは
たよめすりまう

○あそそく久くおれ
ふゆくむちねむれりの
とそよとあつてあつて
ひちよふちい 世世とて
るらんとも。初初ん林け
まふしはて まさるうの作
るの物の中らとあつて
後らして。むちしーま
後らして。あつてあつて
せつちんてうらひあつて
といふんそ初初んて
せうらの社内の神宮の
あつてあつてあつてあつて
つや。百十八 久くも
つや。百十八 久くも
女の方へ入るかとあつてあつて
○あつてあつてあつてあつて



昔はねあつてあつてあつてあつて
るー

百十八
鳥乃花とあつてあつてあつてあつて

若男からあつてあつてあつてあつて

山門の後のあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

若男あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

百廿一 此書の序の文に「此書は...」とあるが、これは...
 百廿二 此書は...
 百廿三 此書は...
 百廿四 此書は...
 百廿五 此書は...

近代の物役事為獨之中出末末代之人と案也更不可用之
 世相終古人々統之不同或云在中抱之自書或称伴勢等絶統
 彼世有書為事亦上古之人強不可為其能者只可就羽花
 言每乘而已

戸部尚書 立判

修務物改行世方より多しといふも或は文字の...
 此のよあやまりう...
 志乃もの...
 く...



千時貞吉式し丑年

仲秋吉辰

繪師系
 吉田是吉
 押出通橋町
 本宅子居七郎...
 江戸定津の系 岡松
 井筒右左衛門

